

# 国民スポーツ大会 全国障害者スポーツ大会とは

## 1年に一度、都道府県を巡って開催

国民スポーツ大会(現在は国民体育大会)は昭和21(1946)年から、全国障害者スポーツ大会は、昭和40年(1965年)から行われてきた「全国身体障害者スポーツ大会」と、平成4年(1992年)から行われてきた「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として平成13年(2001年)から、天皇皇后両陛下をはじめ皇室の方々をお迎えし、都道府県持ち回りで毎年開催されています。

国民スポーツ大会の正式競技は、本大会と冬期大会を合わせて40競技が実施され、競技ごとに獲得した得点の合計を競う都道府県対抗形式により、天皇杯(男女総合優勝)と皇后杯(女子総合優勝)を巡る熱戦が繰り広げられます。

全国障害者スポーツ大会は、障がいのある方がスポーツ競技を通じ、障がい者の社会参加の推進を図るとともに、国民の障がいに対する理解を深めることを目的とした大会です。

## 参加者80万人、経済波及効果600億円

近年、他県で開催された大会の結果報告によると、約2週間の期間中、日本全国からのべ約80万人の参加があり、600億円を超える経済波及効果につながるなど、都道府県ごとに開催されるイベントの中では国内最大規模となります。

両大会の開催に合わせて、地域の文化・芸術イベントの実施や、食、工芸品など地域産品の販売、観光PRなどを通じて、地域の魅力発信にもつなげていきます。

## 2巡目大会の開催に向けて

### 施設やインフラを豊かにした1回目

島根県では、昭和57(1982)年に「くにびき国体」「ふれあい大会」が開催されました。県民総参加による取組により、天皇杯(男女総合優勝)・皇后杯(女子総合優勝)を獲得する栄誉に輝きました。

また、大会を通じて、奥出雲町のホッケーや美郷町のカヌーなど、スポーツによる地域づくりにつながったほか、体育施設や大型道路などのインフラ整備、県民のスポーツへの興味・関心を高めるなど、大きな成果をもたらしました。

### 地域づくり、人づくり、産業の発展など健康で心豊かな未来につなぐ大会に

少子高齢化による人口減少や新型コロナウイルスの感染拡大など、厳しい社会環境の中ではありますが、令和12(2030)年に開催予定である「第84回国民スポーツ大会・第29回全国障害者スポーツ大会」においても、「全ての市町村」を舞台に、「全ての県民の皆様」と一緒になって取り組むことにより、「次代を担う若者の郷土愛の醸成」「スポーツ振興による地域づくり・人づくり」「将来につながる本物の競技力向上」「観光振興など産業振興」につなげ、大会後も健康で心豊かに生活できる島根県としていくことを目指します。

## お問い合わせ

島根県 スポーツ振興課 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地(県庁東庁舎) TEL:0852-22-6096 FAX:0852-22-5636

E-mail:kokumin-sports@pref.shimane.lg.jp